

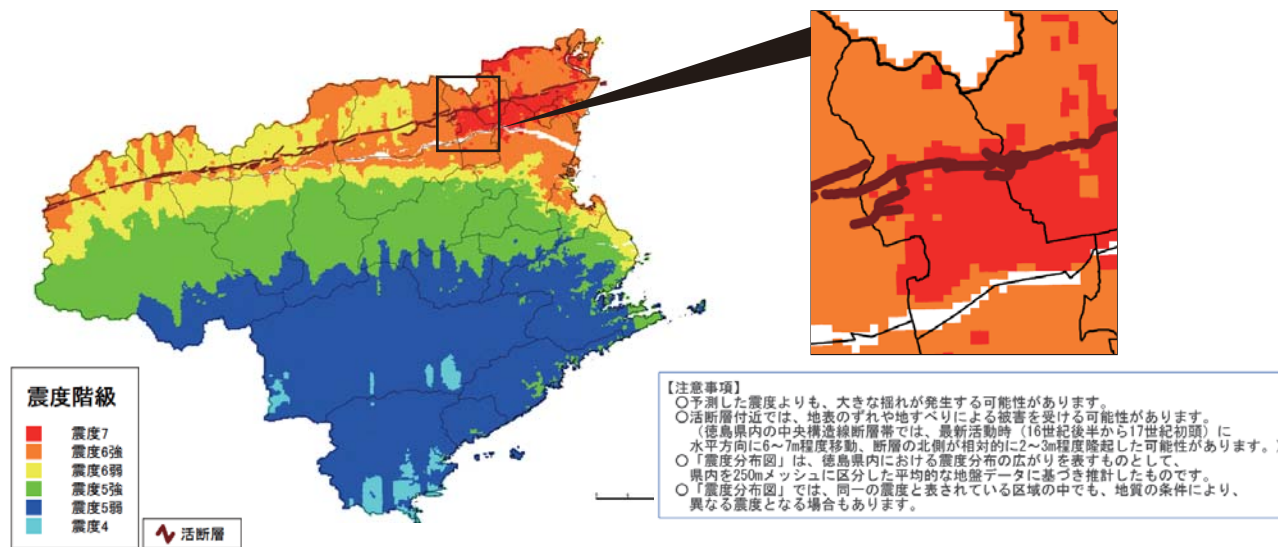
中央構造線・活断層地震

徳島県では、讃岐山脈南縁部に国内有数の断層帯である「中央構造線断層帯」が縦断しており、ここを震源とする直下型地震が発生すれば吉野川北岸を中心として甚大な被害が予想されます。

なお、発生確率は30年以内でほぼ0~0.4%で、国の「主な活断層における相対的評価」は「Aランク(やや高い)」に区分されています。

震度分布

中央構造線・活断層地震による震度分布(徳島県公表)を見ると、吉野川沿いの平野部において「震度6弱~7」の揺れが示されています。上板町では、全域で「震度6強以上」となっており、特に、町南部の平地では「震度7」の巨大な揺れが発生する可能性があることが示されています。



被害想定

徳島県中央構造線・活断層地震被害想定(平成29年7月公表)において、中央構造線・活断層地震が発生した際に上板町に想定される被害として、以下のような結果が示されています。

地震動		建物被害(冬18時)		人的被害(冬深夜)	
地震規模	最大震度	全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数
M7.7	震度7	1,900棟 うち揺れ:1,800棟 地震火災:80棟	1,200棟 うち揺れ:920棟 液化:230棟	120人 うち建物倒壊:120人	450人 うち建物倒壊:450人
ライフライン被害(直後:冬18時)		生活支障(冬18時)			
断水人口	停電軒数	固定電話不通回線数	避難者		
99% (11,800人)	100% (5,700軒)	100% (4,100回線)	1日後 5,500人 うち避難所:3,300人	1週間後 6,900人 うち避難所:3,400人	1ヶ月後 6,800人 うち避難所:2,000人

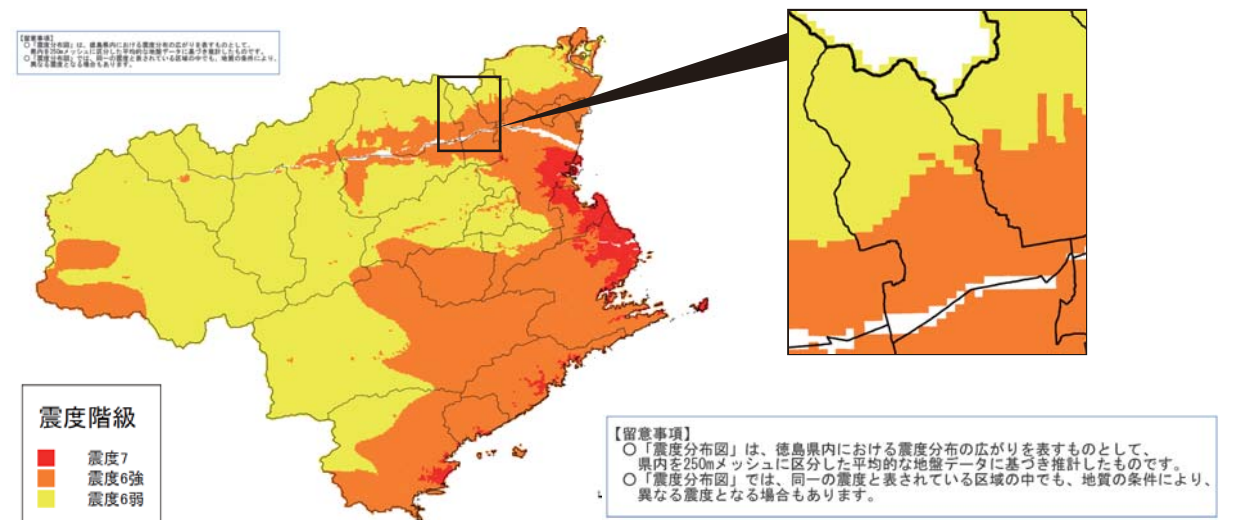
南海トラフ巨大地震

南海トラフの巨大地震とは、静岡県の駿河湾から九州東方沖まで続く海溝(トラフ)沿いの広い震源域が連動して引き起こす地震で、甚大な被害が生じると想定されています。

なお、発生確率は30年以内に70%~80%といわれており、刻一刻と次の巨大地震が迫っている状況です。

震度分布

南海トラフ巨大地震による震度分布(徳島県公表)を見ると、県内全域で「震度6弱~7」の揺れが示されています。上板町では、全域で「震度6弱以上」となっており、特に、町南部の平地では「震度6強」の揺れが発生する可能性があることが示されています。



被害想定

徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第一次:平成25年7月31日)及び徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第二次:平成25年11月25日)において、南海トラフ巨大地震が発生した際に上板町に想定される被害として、以下のような結果が示されています。

地震動		建物被害(冬18時)		人的被害(冬深夜)	
地震規模	最大震度	全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数
M9.0	震度6強	460棟 うち揺れ:440棟 液化:10棟 地震火災:10棟	1,300棟 うち揺れ:1,000棟 液化:300棟	30人 うち建物倒壊:30人	230人 うち建物倒壊:230人
ライフライン被害(直後:冬18時)		生活支障(冬18時)			
断水人口	停電軒数	固定電話不通回線数	避難者		
97% (11,800人)	100% (5,800軒)	100% (4,200回線)	警報解除後当日 1,500人 うち避難所:920人	1週間後 3,200人 うち避難所:1,600人	1ヶ月後 2,700人 うち避難所:800人